



DEN

No.32

2023.11.21
発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



心豊かに作業療法



CONTENTS - テーマ：新しい夢に向けた伴走支援

- 1 まんが作業療法物語 ～四肢切断後の社会復帰支援編～
- 6 教えて！作業療法 「運転補助装置とは」
- 7 インタビュー 久多良木隆幸さん（まんが作業療法の主人公）
- 9 フレッシュマンインタビュー
 - 長門記念病院 — 池田 南実
 - 国東市民病院 — 宗安 拓海

- 10 トピックス「創立 40 周年記念事業」
- 11 第26回 大分県作業療法学会
- 12 以心 DEN 心
- 13 活動報告



まんが 作業療法物語

四肢切断後の社会復帰支援編

Aさんは40歳の明るく元気な男性です
建築の仕事をしてながら休みの日には家族と
外出や旅行を楽しむなど活動的な生活を送っていました



※感染症が原因で急速かつ進行性に全身に多発する紫斑が特徴で、初期症状として、発熱、シビレを伴う。最終的に四肢末端が虚血性壊死に陥り、救命しえても切断を要する頻度が高いと言われている。

ある日、作中に突然倒れ、救急搬送されました
その後、高熱と意識障害が10日間続きました

※
診察の結果、医師から電撃性紫斑病と診断され、
治療が開始されました

治療を進めていましたが、皮膚の状態が悪化し、
医師より家族に切断が必要であるとの説明があり、
Aさんは両足（膝下）と手指を切断しなければならなくなりました

このとき、Aさんの意識はまだ戻っていませんでした

目を覚ましたAさんは、自分の置かれている状況を最初は理解できませんでしたが、
医師からの説明を受け、命を守るために切断したことを理解しました

ショックは受けましたが、子どもたちのために、
「必ず歩いてみせる」と奮起し、リハビリ専門の病院へ転院することになりました

はじめまして
今回、Aさんのリハビリを
担当します療子と言います

これから一緒に頑張りましょうね！
困ったことがあったら
何でも言ってください

まずは、関節が
硬くならないよう
動かしていきますね

また、膝立ちを行い、
全身の筋力や
バランス能力も鍛えます

安定してきたら膝立ちや
四つ這いで移動する練習もしますよ

まずは身体機能が回復するように運動を行い、
車いすへの移乗やいざりなどの練習も行いました



痛みが少なくなってきた A さん
病棟内の移動だけでなく、身の回りのことが
自分でできるように練習を始めました

自宅のトイレでも一人でできるよう、
車いすを使わずにできる方法はないですか？



トイレまでは這って移動しましょう
床にジョイントマットを敷いてみましたが、
どうですか？

これなら這うときに
床が柔らかくて
痛みなく移動できそうです

次に便座への移動です
便座は座面の面積が小さいので、
便座の横に椅子を設置します

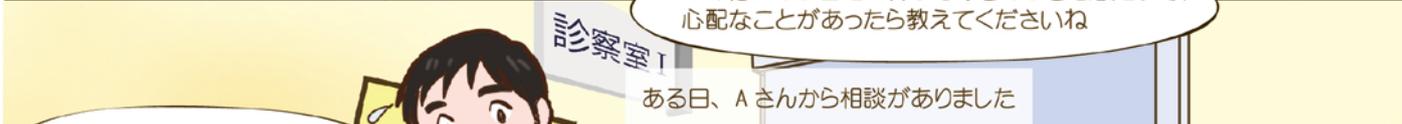
椅子に座ってしまえば、
便座へいざって
移動することができますよ

床から椅子に腰かける床上動作の
練習をしていきましょう



まだ慣れなくて
時間はかかりますが、
これなら家でも
一人でできそうです

その調子で頑張りましょう
その他にもご自宅へ帰ったあとのことを想定して、
心配なことがあったら教えてください



ある日、A さんから相談がありました



だいぶできることが増えてきて、
次の目標がありまして…

義足を作って歩いてみたいんです
難しいでしょうか？

先生、A さんが義足を作って
歩きたいとおっしゃっています
車いすレベルでの
ADL は自立しています

切断部の皮膚や
痛みの状態は
落ち着いています

体幹や残存している筋力も
ずいぶん回復してきました

切断部の状態は
かなり落ち着いてきているね
ぜひ作ってみましょう



さっそく、※義肢装具士に依頼し、
義足の採型、製作、調整を行い、
義足を作製しました

義足が完成し、義足を装着しての立ち上がり、立位保持、歩行訓練を行いました
3ヵ月後には、義足で歩行できる距離が長くなったことで、病院内は一人で歩いて移動できるようになりました



Aさん、だいぶ長く
歩けるようになりましたね
バランスも安定しています

そうですね
歩けるようになりましたが、まだトイレや
身の回りことができるか不安です

不安になりますよね
そうしましたら、今後は昼間に義足を履いて
身の回りのことが一人で
できるように練習してみましようか？

断端管理チェックリスト

- 傷
- 発赤
- 浮腫
- 痛み
- その他

そうすると義足を装着する
時間が長くなるので、義足を外したあとに
切断したところが赤くなっていたり、
擦れていないかを毎回確認する
習慣もつけていきましょう

トイレ動作については、
立ち座りを安定して行えるよう
便座の高さを高くしましょう

この高さなら
立ち座り
しやすいですね

少しずつできることが増えてきて自信につながり、Aさんからも次の目標が聞かれるようになりました

療子さん
できれば家族のために、
掃除機がけや洗濯、
料理もやってみたいです

それから自宅は外や玄関に
小さな段差があります
義足を履いて昇り降りが
できるでしょうか？

ぜひやっ
て
みましよう！

訓練で掃除と洗濯などの家事動作に取り組むようになったAさん
義足を履いて安全に動作が行えるようになりました

環境を整えれば
安全にできそうですね

はい！
次は立って
料理がしたいです

そうですね！料理をするときは
椅子を準備しておきましょう
きつくなったら休憩をしたり、
座って食材を切るなど
工夫していきましょう

※臨時適性検査…すでに運転免許を持っている方が、何らかの理由で身体障がい者になった場合に受ける検査です。

6ヵ月が経過し、Aさんは義足を使用し、身の回りことや家事動作ができ、退院することになりました

ある日療子はAさんからこんな質問を受けました

家に帰ってから、またいつか私の運転でいろんな場所に出かけてみたいなあって思うんです。義足の私でも運転することはできるのでしょうか？

手だけを使ってアクセルとブレーキを操作できるようにする補助装置があるますよ。今度、外来リハビリに来たときに試してみませんか？

そんなすごいものがあるんですね！ぜひどんなものなのか見てみたいです！

外来リハビリにて—

療子は取り外しが簡単にできる手動運転補助装置を借りて、実際にAさんに見ていただき操作を確認してもらいました。また車の乗り降りや片手のハンドル操作など、模擬的に練習をしました。

これなら手だけで安全に運転ができそうですね！

便利ですが慣れるのに時間がかかりそうですね…

自動車学校で乗車教習があります

Aさんと療子は自動車学校で運転の評価をすることになりました

実際にコースを走ってみましょう

徐々に車の動きもスムーズになってきていますね。アクセルとブレーキのハンドル操作も安全にできていますよ。

今の運転技術であれば、十分に気を付けて運転することで再開できると思います

本当ですか？ありがとうございます

後日、Aさんは自動車学校で受けた運転評価の結果を主治医に伝えました

先日、自動車学校に行きました。運転の技術は、教官から運転再開可能との評価を頂きました

そうですか。運転再開に向け進められるんですね。では、運転免許センターの公安委員会に※臨時適性検査を受けに行きましょう

Aさんは運転免許の再取得のために、運転免許センターに行くことになりました



初めは不安な思いが強く、先が見えない状態でしたが、今はできることが増えて安心していきます

退院してからも家族のために頑張りたいと思います

次の目標は義足のランナーです必ず走って見せます

工夫さえすればできることもたくさんあると思います帰ってからもできることを増やしていきたいです



Aさんは退院後も自分のペースで家事や子どもたちの学校への送迎など続けていますまた職場は変わりましたが、短時間での仕事も再開し、家事と両立しています

みんなー！今日の夕ご飯はお父さんお手製のカレーだよ！

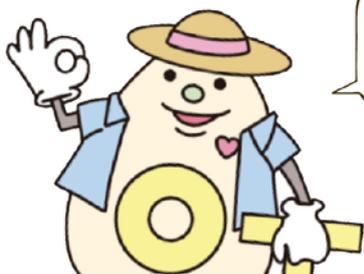


やったー！みんなで食べよう！

よし！みんな食べたねお父さん走る練習に行ってくるよ！

気を付けていって来てね！

さらに新たな目標の実現に向け、日々努力し続けています



四肢を切断した方への作業療法は、切断部の管理だけではなく、各段階に応じてどのようにすれば日常生活が行えるのかを支援することが大事なんだ

また、「退院後に何をしたいのか？」を確認しながら、その主体性の実現に向けてサポートするのが作業療法士の大きな役割になっているよ

この物語は実話に基づいて作成しています。次のページからは、詳細な内容や主人公の声をご紹介します。

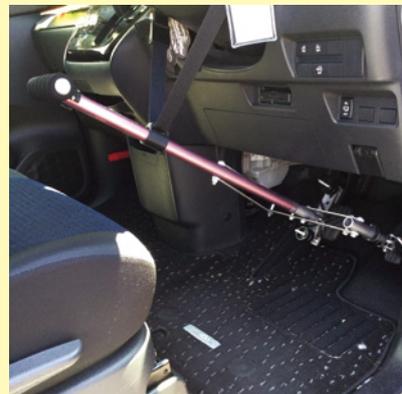
教えて! 作業療法

運転補助装置とは?

運転補助装置とは、身体に障害のある方が車を運転する際に、安全に運転操作ができるよう補助するもので、ハンドルやアクセル、ブレーキなど必要な箇所に取り付けられるものです。



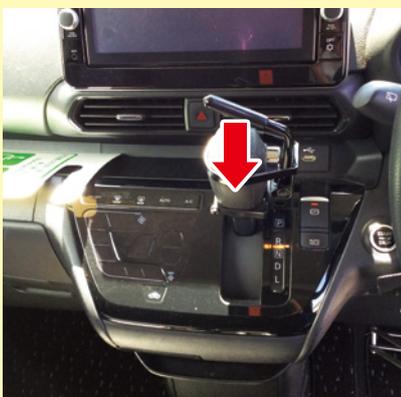
アクセルやブレーキ操作の補助



「まんが作業療法」に出てきた『ニコドライブ』は、アクセルとブレーキにつながっているレバーを手で押し引きすることでアクセルやブレーキの操作を行う装置です。

シフトレバーやハンドル操作の補助

① シフトレバーの補助装置



シフトレバーの横についているシフトロック解除ボタンを親指で押し込むのではなく、矢印部分を上から手のひらで押さえることでシフトチェンジ操作が容易にできるもの。

② ハンドルの補助装置



ハンドルに取り付けるノブのような回旋装置を、手のひらで押さえつけるようにして持つことで、ハンドルを回す操作が片手で容易にできるもの。

今回紹介した運転補助装置のほかにも様々なものがあるよ。作業療法士は、運転をされる方の身体の状態を確認し、安全に運転が行えるように一連の動作に関して必要な装置の提案や操作時の評価などを行うよ。



「四肢切断後のリハビリテーション」 ～ 苦難を乗り越えた原動力とは～



くた ら ぎ たかゆき
久多良木隆幸 さん (46歳)

建設会社で働きながら妻と二人の娘と生活を送っていたが、42歳の時に電撃性紫斑病を発症。両下腿と手指の切断を余儀なくされる。闘病生活中、SNSで義足のランナーの動画を見たことをきっかけに、義足でのランニングを始める。義足で走るための環境を作るために2021年6月チームクタラギ（後のNoLimitOita）を設立している。現在も様々なスポーツ大会に出場し活躍中。

Q1：病気がわかるまでの経緯と当時の気持ちを教えてください。

病気の発症当時は建設業をしていました。現場で働いているときに突然倒れ、高熱が出て10日ほど意識不明の状態が続いたそうです。目が覚めたときにはすでに手足がなく、家族がそばで泣いている状態でした。最初は何が起きているのか理解ができず混乱していましたね。先生や看護師さんから説明を受けて一つずつ状況が分かりましたが、さすがにその当時は落ち込みましたね。

Q2：病気が分かった後、気持ちの変化を教えてください。

最初の頃は突然泣き出すなど精神的にも不安定な状態でしたが、1週間くらいで吹っ切れましたね。もともと後悔する性格ではないですし、寝たきりの状態だったので考える時間もあり、自分の中で気持ちの整理をつけることができました。「不思議と治るんじゃないか」という気持ちもあって…。前職が臨床検査技師で少し医療の知識もあったので、この病気に淡い希望もありました。

ただ、何度か状態が悪化したことで、先生から「膝下まで切断したほうがいい」と言われました。もし切断するのなら、将来的に義足を使いたいと思っていたので、「義足で歩くために必要な膝下10センチは残してほしい」と先生にお願いし、残してもらえたことも、絶望せずに前向きな気持ちになれた要因だと思います。

Q3：リハビリテーションと向き合えた原動力はどこから生まれてきたのですか？

やはり家族の存在が大きかったですね。特に、小学生の娘たちが毎日のように病室に来てくれて、死ぬわけにはいかないと前向きになるしかなかったですね。リハビリをして動けるようになり、「親として仕事をしている姿を娘たちに見せたい」気持ちが強くなり、がむしゃらにリハビリをしました。

あとは、SNSで義足を使って走る50代男性ランナーさんの動画に引き込まれ、「アスリートになりたい」という気持ちが芽生えたことも大きな原動力になりました。途中で新型コロナウイルス感染症の流行により、家族と直接会えなくなったときは気持ちが落ち込み、モチベーションの維持が難しい時期もありましたね。でも、そんなときに病院裏の段々畑に娘たちが来てくれたんです。病室の窓から話すことができ、「走れるんだったら、走ってみたい」という気持ちが復活しました。

今回、難病により両下腿と手指の切断をしながらも、父として一家の大黒柱であり続けるため、また自身の夢を実現するために強い決意で多くの苦難を乗り越えられた久多良木隆幸さんにお話を伺いました。



大会へ出場しメダルを獲得

Q4：入院中にできるようになったことや印象に残っていることはありますか？

印象に残っているのは、やっぱり家事や運転ができるようになったことですね。将来的な目標としては仕事復帰でしたが、いきなりは難しいので、まずは家事ができるように希望しました。リハビリを開始すると、動かなかった腕が動くようになってきたんです。他にも、洗濯ばさみが掴めた、箸で豆を掴めたなどできることも増えて、毎日が新しい発見の連続でしたね。「走りたい」という気持ちも強かったので、入院中に走る準備を始めることもできました。実は、やりたいことリストを作成して、できたことをチェックしていたんですが、退院するときには料理や洗濯などすべてできるようになっていました。

Q5：原動力となったご家族にしてあげたいことなどはありますか？

妻や娘たちに、以前と同じようにしてあげたいと思っています。家のことも半分くらいしたいですし、学校行事にも参加したいです。旅行や県外への遠征などにも行ってみたいですね。実はこの前、次女が突然「道の駅巡りをしたい」と言ってきたんです。そこで、二人で県内の道の駅巡りをして、6時間の長時間運転もできたんです。一家の大黒柱としてもチャレンジの連続ですね。



陸上競技場でのトレーニング

Q6：目標であった仕事についてはどうですか？

現在は、病院の書類手続きやカルテ整理の補助をしています。今は時短勤務なので娘たちが帰ってくるまでには、帰宅するようにしています。将来的には、フルタイムで働いて完全社会復帰をしたいですね。

Q7：今後の夢や目標は何ですか？

夢や目標と言えるか分からないけど、70歳まで陸上をしたいですね。あと20年は走ってみたいです。退院してからも走る練習をしていて、陸上競技場でも走って県体や国体にも出てメダルをもらいました。今年は国体への参加を目指し、色々な大会で公式記録を残して、いずれは日本選手権に出場できるように頑張りたいと思っています。





フレッシュマンインタビュー

今年の4月から、作業療法士の第一歩を踏み出した、2名のフレッシュマンに話を聞きました。



長門記念病院

いけだ みなみ
池田 南実

出身養成校：藤華医療技術専門学校



学生時代の写真



仕事風景



長門記念病院 外観

Q1. 作業療法士をめざしたきっかけ

高校生のときの職場体験です。様々な医療職を見学する中で、作業療法を行う患者様の顔がイキイキとしていたことをよく覚えています。患者様の大切な作業に携われる素敵な仕事だと感じ、作業療法士を目指しました。

Q2. 学生時代の思い出

「実習」が一番の思い出です。担当患者様について一生懸命になることができ、作業療法士という夢に一步近づけた気がしました。たくさんの方との出会いや経験が良い刺激となり、楽しく学びの多い実習となりました。

Q3. どんな作業療法士になりたいか

患者様の人生や生活の中で大切にしてきたものを尊重できる作業療法士になりたいです。これから働いていく中で、気持ちを表出できない方、生きがいを見失った方など多くの患者様と出会うと思います。患者様の思いを引き出し、困っていることに対して同じ目線で考えることを意識したいです。



国東市民病院

むねやす たくみ
宗安 拓海

出身養成校：大分リハビリテーション専門学校



学生時代の写真



仕事風景



国東市民病院 外観

Q1. 作業療法士をめざしたきっかけ

高校時代、地域のボランティア活動に参加し、デイサービスや老人ホームに行く機会がありました。興味のある作業活動を通して、精神的な気持ちの変化だけでなく、身体機能の改善へも大きな影響をもたらしているということに感銘を受けたことがきっかけです。

Q2. 学生時代の思い出

3年間の毎日が思い出です。学園祭での出演や自分たちで企画運営した他学年との交流会など、コロナ禍でも充実した学生生活を最大限に楽しむことができました。また、

国家試験に向けて、クラスで団結し、全員合格に向け、ひた向きに勉強したことが忘れられません。

Q3. どんな作業療法士になりたいか

患者さんに寄り添い、想いや価値観を尊重しながら一緒により良い生活手段を考え、その人らしさを引き出せるようになりたいと思っています。

また、患者さんだけに限らず、ご家族の方や周りの支援者の方々へのサポートも大切にし、一人の患者さんを地域住民全体で支えていけるような支援をできる作業療法士を目指して日々努力を積み重ね頑張ります。

創立40周年記念事業

- 開催日：令和4年10月16日（日）10：00～14：00
- 場 所：大分県労働福祉会館ソレイユ7階カトレア、オンライン
- 内 容：記念講演、記念式典
- 参加者：141名（会員95名、来賓46名）

コロナ禍真っ只中の2022年秋、大分県福祉保健部 藤内修二理事、大分県病院協会 小野記顯会長、前参議院議員 足立信也氏（現大分市長）を始め、県内関係機関・団体の代表や県議会・市議会議員の方々にご来臨いただき、また、県外からも各県作業療法士会や連盟の会長など多くの皆様にオンラインでご参加いただき、協会創立40周年・連盟設立10周年記念事業を無事開催することができました。



記念講演では、日本作業療法士協会と日本作業療法士連盟の両方の活動をよく知る杉原素子氏から、地域での活躍がますます期待されるであろう作業療法士に熱いメッセージをいただきました。作業療法士議員サミットのダイジェスト動画は、私たち作業療法士の視点が地域住民の暮らしをつくる政治においても有用であることを示唆してくれたように思います。

記念式典では、長きに渡り、役員として協会の活動を支えていただいた方々に敬意を表し、表彰状・感謝状を贈呈しました。一言に40年といっても、歴代会長を始めとする先輩諸氏のご尽力があったからこそその積み重ねの40年であり、また、社団法人化して以降は有識者理事の皆様からのご指導が当協会の社会的発展に欠かせなかったことは言うまでもありません。この場を借りて、改めて感謝を申し上げます。



第26回 大分県作業療法学会

会 期：2023年1月21日(土)・22日(日)
会 場：J:COMホルトホール大分 & オンライン(ハイブリッド開催)
講 演：【特別講演】

「活動・参加を見据えた認知機能障害の診方・伝え方」
原 麻理子 氏 (国際医療福祉大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授)

【教育講演1】

「地域とともに作業療法士が考える人とまちと暮らし
～認知症や高次脳機能障害における生活・就労・自動車運転～」
永島 匡 氏 (株式会社Reha Labo Japanリハラボ訪問看護ステーション町田 地域連携室 室長)

【教育講演2】

「うつ病治療における多職種連携の実践～すべての作業療法士に役立つ知恵と技術～」
早坂 友成 氏 (杏林大学 保健学部 准教授)

一般演題発表：口述発表 22題

学生セッション：オンデマンド発表 5題

公 開 口 演：「笑いは心を豊かにする作業～人生を楽しく生きる力～」
矢野 大和 氏 (口演家 鷹鳥屋神社 宮司)

参 加 者：会員130名、他県士会会員2名、他職種2名、非会員作業療法士1名
表 彰：

- 学会長賞 佐藤 友美 (JCHO湯布院病院)
「目標とする生活行為の設定における多職種と家族の連携の重要性
～人生物語を読み解き、心が動く生活行為を見いだせた事例を通して～」
- 優秀演題賞 樋口 ちひろ (けいわ訪問看護ステーション大分)
「がん終末期利用者に対し、訪問作業療法ができること
～最期を自宅で迎えた利用者との関わりを通して～」
- 新人優秀賞 榎木 里香 (かわしまクリニック)
「正中神経断裂及び環指伸筋腱断裂を受傷した中学生に
対する作業療法経験」
- 新人奨励賞 重藤 ひかる (大分岡病院)
「被害妄想様の言動がある右下腿難治性皮膚潰瘍患者に
対する自宅退院支援」



今回は「進化する作業療法～専門性、多様性を考える～」をテーマに3名の講師の方にご登壇いただきました。昨今医療から地域まで様々なステージ、様々な分野の知識や技術が求められています。そして、地域での生活を支援するために、各職種の専門家の方々と多職種連携が重要です。専門性に特化するだけでなく、多様化するニーズに応える『深化』が問われているのだと思います。いずれの講師の方も各分野でエビデンスに基づいた専門性と、それを地域支援の中で多様化するニーズにどう応えるのか、幅広い視点からご講演いただきました。

また、演題発表においても日々現場で取り組んでいる実践の振り返りや研究内容が発表されていました。

今学会は、オンラインでの配信も残しつつ、3年ぶりに対面の場での学会を開催することができました。やはり、顔の見える会場での講演や演題発表は、活気があり、非常に充実した時間でした。

学会長 浅倉 恵子

「冷静さと情熱を兼ね備えること」

矢野 高正 (大分リハビリテーション専門学校)



私が学生に伝える言葉があります。

「作業療法士は“冷静さ”と“情熱”の2つを大事にするように」

この言葉は私自身が大事にしている言葉でもあります。

“冷静さ”は、対象者を前にしたとき、特に思い悩んだときに、作業療法士としてすべきこと、優先すべきことを、根拠に基づき、客観的に分析・介入し実践するために必要不可欠なものと考えます。この“冷静さ”を持ち合わせることで、私たちはその都度、沸き起こる様々な感情と折り合いをつけながら作業療法を実践できるのではないのでしょうか。同時に、対象者は様々な心情を持ち合わせており、一人ひとり寄り添って柔軟に対応する必要があります。そのときに“情熱”は作業療法士として、対象者の心情をくみ取りながら粘り強く支援する礎になります。“情熱”に欠ける作業療法は無味乾燥なものとなり、時には対象者に有害になってしまうことすらあり得ます。

しかし、“言うは易く”とはこのことで、“冷静さ”と“情熱”を常にバランスよく実践することの難しさを、現在の私は作業療法士養成教育の中で痛感しています。成績に悩む学生、実習に悩む学生、日々の言動から誤解されやすい学生と向き合うとき、

「コーチング？ ティーチング？ 理論的に伝えるか？ 情に訴えかけるか？ 理と情をどの程度調合して接するか？… さあ、どうする？」などと…

作業療法士経験20年を超えても、いまだに自問自答を繰り返しながら学生と関わる日々です。

これから先、作業療法が心身に不自由を抱えた方のみならず、すべての人の健康に携わることができる職種として深化できるよう、魅力的な作業療法士を養成すべく「さらに“冷静さ”と“情熱”を、持て」と、自分自身を奮い立たせたいと思っています。

作業療法公開講座(公開口演)

テーマ：笑いは心を豊かにする作業～人生を楽しく生きる力～
 日 時：令和5年1月22日(日) 15:30～16:30
 場 所：J:COMホルトホール大分 大会議室、オンライン
 講 師：矢野 大和 氏(口演家・鷹鳥屋神社宮司)
 参加者：69名(会場23名、オンライン46名)

精神分野研修会

テーマ：うつ病患者に対する作業療法
 日 時：令和4年12月19日(月) 19:00～21:00
 場 所：オンライン
 内 容：講義およびディスカッション
 「院内で終わらせない うつ病への作業療法
 ～復職後の生活を見据えた環境調整～」
 講 師：永松 謙一(博愛診療所)
 参加者：13名(会員13名)

発達分野研修会

テーマ：就労支援について
 日 時：令和5年2月20日(月) 19:00～21:00
 場 所：J:COMホルトホール大分 303会議室
 内 容：講義「発達障害者への就労支援
 ～NPO法人那須フロンティアでの実践～」
 講 師：野崎 智仁 氏(国際医療福祉大学、NPO法人那須フロンティア)
 参加者：19名(会員19名)

現職者共通研修V

日 時：令和4年11月15日(火) 19:30～21:00
 場 所：オンライン
 内 容：保健・医療・福祉と地域支援
 講 師：佐藤 優(大分大学医学部附属病院)
 参加者：14名

現職者共通研修VI

日 時：令和4年12月11日(日) 09:00～10:30
 場 所：オンライン
 内 容：実践のための作業療法研究
 講 師：彌田 剛(藤華医療技術専門学校)
 参加者：5名

現職者共通研修VII

日 時：令和4年10月25日(火) 19:30～21:00
 場 所：オンライン
 内 容：日本と世界における作業療法の動向
 講 師：高森 聖人(会長/一般社団法人虹色)
 参加者：19名

現職者共通研修VIII

日 時：令和4年12月11日(日) 11:00～12:30
 場 所：オンライン
 内 容：事例報告と事例研究
 講 師：矢野 高正(大分リハビリテーション専門学校)
 参加者：8名

現職者共通研修IX

日 時：令和5年3月3日(金) 19:30～21:00
 場 所：オンライン
 内 容：事例検討
 参加者：7名

現職者共通研修X

日 時：令和5年3月3日(金) 19:30～21:00
 場 所：オンライン
 内 容：事例報告
 事例報告者：村上 恭太郎(別府リハビリテーションセンター)
 平川 綾音(五反田病院)
 寺司 奈々子(明野中央病院)
 参加者：3名

**現職者選択研修
生活行為向上マネジメント基礎研修II**

日 時：令和5年3月11日(土) 09:00～16:30
 場 所：オンライン
 内 容：MTDLP概論講義、演習、グループワーク
 講 師：佐藤 友美(湯布院病院)
 山本 貴美(湯布院病院)
 岩井中 瑛梨(別府リハビリテーションセンター)
 参加者：5名(会員5名)

**現職者選択研修
精神障害領域における作業療法**

日 時：令和4年11月20日(日) 09:30～16:40
 場 所：オンライン
 内 容：①統合失調症患者さんへの関わり方
 ②フリーディスカッション～臨床精神科作業療法学～
 ③地域生活の継続を支える～メンタルヘルスの視点から～
 講 師：①②大丸 幸 氏(九州栄養福祉大学 特任教授)
 ③芳賀 大輔(NPO法人日本学び協会 就労移行
 支援ONE MORE 統括所長)
 参加者：14名(会員14名)

生活行為向上マネジメント実践者研修II

日 時：令和5年1月8日(日) 9:00～13:00
 場 所：オンライン
 内 容：講演『MTDLP実践のポイントと事例登録のコツ』、
 登録チャレンジ事例検討
 講 師：柴田 八衣子 氏(兵庫県立リハビリテーション中央病院)
 発表者：村上 義樹(ほしの整形外科クリニック)
 自見 美菜(村上記念病院)
 参加者：10名(会員10名)

生活行為向上マネジメント実践者研修III

日 時：令和5年2月24日(金) 19:00～21:00
 場 所：オンライン
 内 容：MTDLP実践事例の検討、みんなでチャレンジMTDLP
 発表者：木村 舞(明野中央病院)
 大野 哲也(大分リハビリテーション病院)
 永尾 千文(ケアガーデンおおつか)
 ファシリテーター：加藤 真美(諏訪の杜病院)
 定村 直子(佐藤第一病院)
 自見 美菜(村上記念病院)
 参加者：8名(会員8名)

第9回(2022年度第2回)臨床実習指導者講習会

日 時：令和5年3月18日(土) 09:00～18:50
 令和5年3月19日(日) 08:45～16:05
 場 所：オンライン
 参加者：22名(会員13名、非会員作業療法士5名、
 他県士会会員3名、他職種1名)

認知症アップデート研修Ⅲ

日時：令和4年12月6日(火) 19:30～21:30
場所：オンライン
内容：「認知症作業療法評価の手引き」を活用した事例報告およびグループワーク
報告者：安藤 歩美(大分リハビリテーション病院)
松木 和歩(サンライズ酒井病院)
村上 準也(瀧野病院)
参加者：12名(会員11名、非会員作業療法士1名)

認知症のある人の地域支援研修(認知症サポーター養成講座)

日時：令和5年3月7日(火) 19:30～21:00
場所：オンライン
内容：作業療法士向けの認知症サポーター養成講座、地域での取り組みの紹介
講師：真田 康孝(コスモス病院)
七郎丸 恵(コスモス病院)
参加者：19名(会員17名、他職種2名)

地域ケア会議助言者情報交換会①

日時：令和4年12月23日(金) 19:30～21:30
場所：オンライン
内容：地域ケア会議助言者間の情報交換や交流など
対象：2022年度地域ケア会議助言者(協会より助言者登録している会員)
参加者：16名(会員16名)

地域ケア会議助言者情報交換会②

日時：令和5年1月27日(金) 19:30～21:30
場所：オンライン
内容：地域ケア会議助言者間の情報交換や交流など
対象：2022年度地域ケア会議助言者(協会より助言者登録している会員)
参加者：18名(会員18名)

母子保健事業・放課後児童クラブ巡回支援事業派遣者の情報交換会

日時：令和5年3月2日(木) 19:30～21:00
場所：オンライン
内容：発達領域派遣事業報告および情報交換会
参加者：21名(会員21名)

オンラインサロンⅡ

テーマ：改！診療報酬の巻～OTの現場はどげえなった？～
日時：令和4年11月11日(金) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：①各病期における改定のポイント
②改定後の変化について語ろう(意見交換)
参加者：17名(会員17名)

オンラインサロンⅢ

テーマ：理想と現実を語ろうえ！
日時：令和5年3月29日(水) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：①作業療法士の理想と現実(話題提供)
②若い頃抱いていた理想と現実を語ろう(意見交換)
③理想を現実にするために明日からできること(意見交換)
参加者：20名(会員19名、他県士会会員1名)

JIMTEF研修報告会

日時：令和4年12月16日(金) 19:00～20:30
場所：オンライン
内容：①JIMTEF研修報告
②ワークショップ「対象者の安全な避難方法と備えを考えよう」
報告者：真田 康孝(コスモス病院)
右田 雅那(国東市民病院)
ファシリテーター：佐藤 友美(湯布院病院)
参加者：3名(会員3名)

北部支部事例検討会

日時：令和4年11月28日(月) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：事例報告およびディスカッション
事例提供者：山本 晴菜(和田病院)
川端 賢治(川島整形外科病院)
ファシリテーター：柴山 涼(千嶋病院)
中原 笙(つくし園)
参加者：21名(会員21名)

西部支部事例検討会

日時：令和5年2月9日(木) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：事例報告およびディスカッション
事例提供者：佐東 理沙(日田リハビリテーション病院)
小田 朱莉(日田リハビリテーション病院)
ファシリテーター：坂本 雄基(日田リハビリテーション病院)
松方 さやか(日田リハビリテーション病院)
参加者：17名(会員17名)

東部支部事例検討会

日時：令和5年2月16日(木) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：事例報告およびディスカッション
事例提供者：四井 浩人(あおぞら病院)
小関 渚亜(黒木記念病院)
ファシリテーター：沼田 武一郎(あおぞら病院)
参加者：25名(会員25名)

大分西・大分中央支部事例検討会

日時：令和5年2月22日(水) 19:30～21:30
場所：オンライン
内容：事例報告およびディスカッション
事例提供者：中村 光彦(博愛診療所)
伊藤 春果(今村病院)
ファシリテーター：梅木 大輔(湯布院病院)
上田 悠豊(大分大学医学部附属病院)
参加者：28名(会員28名)

豊肥・南部支部事例検討会

日時：令和5年3月9日(木) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：事例報告およびディスカッション
事例提供者：池田 幸穂(みえ病院)
河室 和樹(みえ病院)
ファシリテーター：品矢 浩太(南海医療センター)
参加者：35名(会員32名、学生3名)

大分南・大分東支部事例検討会

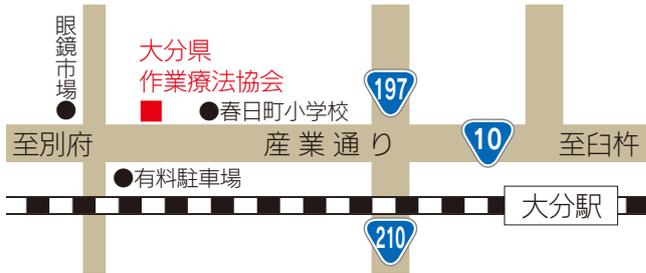
日時：令和5年3月16日(木) 19:00～21:00
場所：オンライン
内容：事例報告およびディスカッション
事例提供者：岩佐 俊瑠(介護老人保健施設 大分豊寿苑)
平川 翔太郎(大分リハビリテーション病院)
ファシリテーター：杉山 卓弥(へつぎ病院)
参加者：23名(会員23名)





作業療法士は、

そのひとの人生が生き生きとしたものとなるよう、仕事、遊びなどの日常生活のなかでの活動(作業)をとおして、こころとからだを元気にするリハビリテーションの専門職です。



リハビリテーションのことや、作業療法
のことで分からなかったり、お困りのこ
とがありましたら、右記までご連絡くだ
さい。

公益社団法人 大分県作業療法協会
〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル
TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663
<http://www.oita-ot.com>

●本誌に掲載している写真については、すべてご本人・施設の了承を得ています。